第16回 東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R7.1.20)

国土交通省
東北地方整備局

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により生産性の向上や、魅力ある建設現場を目指すことを目的とし、有識者、発注者及び建設業団体からなる会議を開催 した。
(東北地方整備局会議室＆WEB会議システム併用)
【 議　事 】(1)東北地方整備局からの情報提供　(2)各会員からの情報提供
(3)東北未来「働き方・人づくり改革プロジェクト2025」

◆出席者

【 有 識 者 】 東北大学大学院　高橋特任教授、皆川准教授、
宮城大学　蒔苗教授
【国土交通省】 東北地方整備局、i-Constructionサポート事務所
【自　治　体】 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
【業 界 団 体】東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、
日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、
建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、
日本建設機械ﾚﾝﾀﾙ協会東北協議会、日本道路建設業協会東北支部、
建設電気技術協会、ＯＣＦ東北部会

【議事】(1)東北地方整備局からの情報提供

1)みちのくインフラDX奨励賞
　・R6表彰の選定基準、推薦状況
2)ICTサポーター認定制度
　・活動実績、事例紹介（HP掲載報告）
　・感謝状贈呈式(1/16開催報告)
3)DX・i-Construction東北版ポータルサイトの開設
4)ICT地元経営者向けセミナー
5)人材育成の取り組み
　①研修の実施状況
　②担い手育成･確保に向けた新技術体験学習会の実施状況
　③意見交換
　（土木系への進学・建設業界就業者数の増加等の分析）

【議事】(2)各会員からの情報提供

・活動状況、次年度以降の取り組み予定、課題

【議事】(3)東北未来「働き方・人づくり改革プロジェクト2025」

東北地整、県・仙台市、建設業団体が連携して取り組む東北未来「働き方・人づくり改革プロジェクト」(案)における、生産性向上の推進及び担い手の育成・確保にかかる取り組みについて説明。
・ICT活用工事の更なる普及･拡大
・遠隔臨場、WEB検査の推進
・「i-Conモデル事業（３次元情報活用モデル）」の推進･好事例の展開
・３次元設計（ＢＩＭ／ＣＩＭ）の高度化推進(国)、活用推進（県･仙台市）
・人材の育成･確保等

ー　有識者からのコメント　ー

- 各会員が積極的にDXを推進する活動をされていて非常に良い。
- みちのくインフラDX奨励賞はﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ向上につながるため継続されたい。
- 奨励賞について、広報の観点が選考基準としてあっても良いと思う。
- ICTｻﾎﾟｰﾀｰ認定制度は実績が増えており、効果が感じられる。制度を利用した施工業者が独り立ちし自主的にICTに取り組むようになるよう継続したﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟが必要。また、取り組んだ分だけ施工業者に利益があることが重要。
- 中小企業に向けた取り組みやICT機器の購入等に対する補助金等の支援拡大は引き続きお願いしたい。
- 経営者セミナー受講後、ICT施工に取り組んでいるか効果検証が必要。
- 講習会をオンデマンド化するなど、繰り返し受講できるとよい。
- 担い手確保の取組は即効性がないため、長期的な効果検証を実施いただきたい。
- 新しく建設業に携わる方へ、体験会等の参加経験やそれが携わるきっかけになったかアンケートを実施、またその方の子供を含めた親子見学会を実施してはどうか。
- 特に地公体では土木系の技術職員の確保に苦慮していると聞く。土木専攻の学生のみならず、情報系等の他分野も巻き込んだ人材確保を考える必要がある。
- 地公体は設計・施工・維持管理でのBIM／CIM活用を積極的に取り組み、課題等を国と共有していただきたい。